

令和6年度 事業報告書

障害児通所支援 第2ちゃーむ

生活支援に関する事業

	実施事業名	実施月	実施状況		主な実施内容	結果
			参加人数	実施回数		
A 日 中 活 動	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	意欲的に個別課題に取り組んだり、自ら宿題を行う様子が見られた。いろいろな遊びや活動を通して、友達との適切な関わり方や集団でのルールを無理なく学ぶことができた。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園や海洋博物館、公共の施設への外出を通して、基礎体力と心身の健康増進を図る。	公園では活発に体を動かして健康増進につながった。見学学習や体験を通していろいろな経験をしながら公共のマナーを学ぶことができた。また、おむすび作りや玉ねぎ、じゃがいも、さつま芋の収穫を行い、食への興味が広がった。
	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指先を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げていく。	作品を完成させることで達成感を持ち、季節を感じたり年中行事への関心が深まった。家族にも喜んでいただくことができた。
	運動遊び 体幹トレーニング	通年	全員対象	運動遊び・体幹トレーニング 週1回	楽しく体を動かすことで、走る・転がる・飛び跳ねる・渡るといった基本的な動作を養い、体の動きをコントロールすることで、苦手な動作や不器用さの改善を図る。	日常動作以外の動きをすることで、苦手だった動作ができるようになったり、得意な活動をすることで自信につながった。
	リトミック	通年	全員対象	週1回	楽しく音楽と触れ合いながら、基本的な音楽能力を伸ばすとともに、身体的、感覚的、知的にも、子どもたちが個々に持っている潜在的な基礎能力の発達を促していく。	音の高低や速さ、拍子を聴きわけることで楽しみながら注意力を養うことができた。また、個別の動きだけでなく、皆と一緒に動く楽しさを感じる様子が見られた。
	ミュージックケア	通年	全員対象	月1回	音楽の特性を利用して心身に快い刺激を与え、情緒の安定を図る。運動感覚や知的機能の改善を促す。	いろいろな楽器を使用することで、音楽への興味が広がり、音楽に合わせる心地よさを感じるようになった。
	ウォーキング	通年	全員対象	通年	季節の移り変わりを感じながら歩き、気持ちをリフレッシュしたり体力の向上を図る。地域社会への参加を促す。	散策を楽しみながらも、交通ルールの学習や道路の歩き方を練習することができた。
	スヌーズレン	通年	全員対象	通年	聴覚・視覚・触覚・味覚・嗅覚の五感を使って、トータルリラクゼーションの心地よい空間を提供する。	各自が自分の心地よい過ごし方で過ごし、気持ちの安定を図るスペースとして活用できた。
	キッズヨガ	通年	全員対象	月2回	心と身体両方に作用するヨガを通して健康な身体を作ると同時に、精神の落ち着きを得ることで自己肯定感などを高め、豊かな人間性を育成することを目的に行う。	静かな環境で活動することで気持ちが落ち着き、いろいろなポーズを通して体幹や柔軟性を養うことができた。

	フラ体操	通年	全員対象	月1回	フラダンスをベースとした体操で脳の活性化、健康促進を目的に行う	知っている曲では歌を口ずさみながら踊り、楽しそうに体を動かす様子が見られた。難しい動きもあったが、真似ようとする気持ちを感じられた。
	就労体験	通年	全員対象	年2回程度	将来を見据え、いろいろな仕事や施設を見学、体験することで、就労について考えるきっかけを作り、意識を高めていく。	虹のかけはしで段ボール作業に挑戦し、働くことへの意識につながった。
	美化活動	通年	全員対象	月1回	花壇の整備、草むしり、窓ふき等、環境美化活動を行う	意欲的に取り組む利用者も多く、活動を通して室内だけでなく、いろいろな場所や物に対しての清潔への意識向上につながった。
B 各種療法	療法的な音楽の時間	通年	全員対象	月1回	いわき音楽療法研究会MusicForestのご協力のもと、音楽を聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたりする中で心や体を刺激し、生活向上と機能回復を目的とする。	いろいろな楽器に興味を持ち、触れたり協力して演奏していた。歌や音楽を通して季節を感じながら体を動かす楽しさを感じることができた。
	造形活動	6月	全員対象	年1回	粘土を捏ねたり、握ったりする作業から、手指の発達を促す。子供たちの創造性を育み、作ることの楽しさや喜びを体験する。	自分で考え、工夫して紙粘土で好きなものを作った。色付けも行い個性豊かな作品となった。
	遊戯療法	通年	全員対象	通年	遊びを通して、自らの問題状況や、言語化できない感情を表現することを目指す。	ルールのあるゲームを通して、感情の表現やコントロール、ルールを守る意識を学ぶことができた。
C 療育	SST (社会生活技能訓練)	通年	全員対象	通年	人との関わり・行動をより適切で効果的に行うことができるよう社会的スキル訓練を行う。また、学習理論(行動理論)に基づく技法を用いて体系的、意図的に対象者の技法形成を図る構造化された方法で本人の強さを引き出す。	個々の発達段階に合わせた課題を使用しての学習や、様々な活動の場面で練習することで、他者との関わり方や適切な行動、会話や言葉以外での意思表示のスキルの向上を図った。
	太田ステージ	通年	全員対象	通年	太田ステージ評価用具を使用した評価を行うことで、客観的に個々の発達段階を把握し、各発達段階に応じた療育につなげていく。	共通のツールで評価することで、客観的な発達段階の共通理解につながった。
	TEACCH	通年	全員対象	随時	周囲の状況を自分の力で理解し、自分に必要な情報を選び出し、適切な行動ができるよう障害や能力に合わせて構造化した環境を整え視覚的支援をする。	環境を整備し、全体のスケジュールや必要に応じて個別のスケジュールを提示することで、見通しを持って活動できた。また、写真や絵カード、タイマー等の視覚支援も交えて様々な場面で「自分で選択する」機会を設け、意思決定ができるよう支援を行った。

関係機関との連携強化

D 関係機関連携強化	児童発達支援	通年	児童発達児	通年	身近な地域の障がい児支援の専門事業として、通所利用の障がい児の受け入れだけでなく、地域の障がい児・その家族を対象とした支援や保育所等の障がい児を預かる施設に対する援助を行う。	幼稚園見学を実施して共通理解を図った。発達段階に合わせた療育を提供することで、保護者からも成長が感じられるという声を頂いた。また、関係機関と保護者も参加した支援会議や入学前に小学校にて支援会議を行い、情報を共有した。
	家族支援	通年	全員対象	通年	不安をかかえている保護者に対する心理的なケアや家庭における療育方法の支援、利用者の兄弟に対する支援の促進など、家族を含めたトータルな支援を図っていく。	連絡帳や迎え時に保護者とのコミュニケーションを積極的にやり取りし支援に繋げた。また、その都度相談に応じたり、定期的にアセスメントを実施することで共通理解を深め、ニーズに合わせた支援を行った。
	ケアマネジメント	随時	各関係者	随時	支援の切れ目が生じないように、各機関との連携を図る。	必要に応じて地区センターや学校、相談事業所と協力をし、支援会議を開催した。
	法人内連携	随時	法人内関係者	随時	相談支援事業を通し、本人や家族が必要としている制度の説明やサービス等を安心して利用できるよう円滑化を図る。	個々に合わせた必要なサービスが提供できるよう、相談事業所と連携を行った。

地域力を高める

	外食	4月 8月 9月 10月 1月	一部利用者 (23名)	年2回程度	自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。	事前にメニューを伝えたことでスムーズに注文でき、支払いも自分で行った。また、当日に予定していなかったものを購入する等、自己決定の機会を持つことができた。
	買い物	7月・9月	(15名)	年3回程度	自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。	買い物を楽しみに待つ様子が見られた。財布やエコバックを準備したりと、支払いまでの一連の流れを学ぶことができた。
	ボランティアの活用		全員対象		ボランティアの受け入れを積極的に行うことにより、障害児通所支援の認知を広める。	希望者がいなかったため受け入れはなかった。
	公共交通機関の利用	2月	一部利用者 (3名)	年2回程度	就労を見据えて、公共交通機関利用(バス・電車)の訓練を行う。	電車に乗車し、マナーや支払い方法について学習できた。

社会貢献

実習生の受け入れ	通年	全員対象	通年	実習生を積極的に受け入れ、障がい児に対する支援や交流等を通し福祉人材の育成に貢献する。	小田原短期大学の実習生を受け入れ、福祉人材の育成に貢献した。
高齢者との交流		全員対象		子供たちと高齢者とのつながりが希薄になっている状況において、子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、子供たちが高齢者と触れ合い、高齢者から学んでいくことを目的とする。	祖父母と交流するきっかけになるよう、敬老の日に向けて「ふくろうのタペストリー」を製作した。
地域の清掃活動	通年	全員対象	通年	近隣の公園や公共施設のゴミ拾い等を行い、地域の環境保全に協力する。	室外活動や散策の際にゴミ拾いを実施し、公共のマナーについて学習する機会となった。

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和6年4月 ） 令和7年3月	a. 職員会議（毎月） b. 個別支援方針決定会議（随時） c. 権利擁護委員会（随時） d. 権利擁護委員第三者委員との懇談会（7月・2月） e. 次年度事業計画策定会議（12月～2月） f. 行事計画会議（随時） g. サービス担当者会議（随時）
B. 監査	令和6年10月	・法人内部監査

研修に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
法人外	令和6年5月	・集団指導
	令和6年6月	・感染症対策勉強会
	令和6年7月	・中堅職員研修
		・強度行動障害研修
	令和6年8月	・サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者・相談支援専門員フォローアップ研修
		・虐待防止研修
	令和6年9月	・令和6年度第1回障害児通所事業所連絡会
	令和6年10月	・意思決定支援研修
	令和6年11月	・救命研修
		・障がい児・者の防災、避難講座
令和5年12月	・令和6年度第2回障害児通所事業所連絡会	
令和6年3月	・令和6年度第3回障害児通所支援事業所連絡会	

その他の事業

なし	月	(団体名)	内容

令和6年度 活動内容実績

第2ちゃーむ

月	児童発達支援			放課後等デイサービス			総計	延人数		
	(幼)男子	(幼)女子	合計	(児)男子	(児)女子	合計		男子	女子	合計
4月 (26)	4	1	5	19	10	29	34	195	112	307
5月 (27)	5	1	6	19	10	29	35	196	106	302
6月 (25)	5	1	6	19	10	29	35	186	95	281
7月 (27)	5	1	6	19	10	29	35	199	107	306
8月 (27)	5	1	6	19	9	28	34	190	97	285
9月 (25)	5	1	6	19	9	28	34	186	91	287
10月 (27)	5	1	6	19	9	28	34	201	105	306
11月 (26)	5	1	6	19	9	28	34	183	95	278
12月 (24)	5	1	6	19	9	28	34	181	84	265
1月 (24)	5	1	6	19	9	28	34	206	96	302
2月 (24)	5	1	6	19	9	28	34	189	88	277
3月 (26)	5	1	6	19	9	28	34	206	103	309
合計	59	12	71	228	112	340	411	2318	1179	3497

利用者数 (3月現在)

幼児	計
6	6

小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
3	1	0	3	5	1	13

中学1	中学2	中学3	計
1	2	2	5

高等1	高等2	高等3	計
0	4	6	10

学校名

未就園	保育所	幼稚園	いわき支援	富岡支援	好間一小	湯本一小	御厩小	合計
0	3	3	24	0	1	1	2	34

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	肢体不自由	その他	合計
17	4	4	0	9	34

手帳等級

療育A	療育B	手帳なし	合計
18	10	6	34

利用者数

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
0	0	0	0	0	0	0	0

中学	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
0	0	0	0	0	0	0

学校名

未就学	保育所	幼稚園	いわき支援	富岡支援	好間一小	合計
0	0	0	0	0	0	0

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	肢体不自由	その他	合計
0	0	0	0	0	0

手帳等級

療育A	療育B	合計
0	0	0